

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]
(平成 29 年3月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 東広島市内における麻しん（はしか）患者の発生について



麻しん 広島県

検索

2月8日に東広島市内の医療機関から患者発生の届出のあった「麻しん（はしか）」は、現在までに、保育園の園児を中心に患者11名の集団発生となっています。

麻しんは、空気感染や接触感染でうつる非常に感染力の強い感染症で、手洗い、マスクのみでは予防できません。有効な予防方法はワクチン接種です。

「MRワクチン（麻しん風しん混合ワクチン）」の定期接種の対象年齢にある方（第1期「1歳」及び第2期「小学校入学前1年間」）は、確実に接種するようお願いします。

医療機関におかれては、麻しんと臨床診断された場合には、直ちに保健所に御連絡ください。



写真2 麻しんの写真
(撮影：馬場宏一氏)

(出典)「学校における麻疹対策ガイドライン」
平成20年3月国立感染症研究所作成

【潜伏期間】通常10～12日（7日～21日）

【臨床症状】特徴的な発疹，発熱，カタル症状（咳，鼻汁，結膜充血）

【感染経路】空気感染，飛沫感染，接触感染 ※基本再生産数（ R_0 ）は12-18（インフルエンザ2-3）

【治療・予防】特異的治療法はない。予防にはワクチンが有効

【感染力のある期間】発病1日前～解熱後3日

【学校保健安全法】解熱した後3日を経過するまで出席停止

【合併症等】・2大死因は，肺炎と脳炎。

- ・患者1,000人に1人の割合で脳炎が発症し，死亡する割合も，先進国であっても1,000人に1人と言われる。
- ・麻しんに罹患後7-10年を経て亜急性硬化性全脳炎（SSPE）を発症することがあり，発症者の大半は知能障害，運動機能障害が進行した後数年以内に死亡。

(2) 梅毒について



梅毒 Q & A

検索

近年，全国的に梅毒の報告患者数が増加傾向にあります。

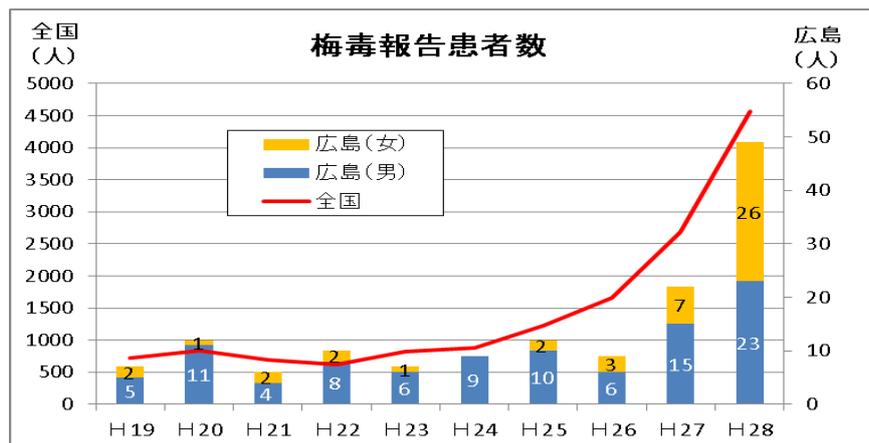
広島県においても，平成26年の報告患者数9人に対し平成28年は49人となり，対26年比で5倍の増加となりました。平成29年も2月末現在，県内の報告患者数は13人です。

梅毒は，主に性的接触によってうつる感染症です。原因は，梅毒トレポネーマという病原菌で，粘膜や皮膚の小さな傷から侵入して感染します。

陰部に潰瘍ができたり，リンパ節の腫れ，全身の発疹等の症状を呈します。進行すると，脳や心臓にも症状が出る場合があります。また梅毒に罹患している方が妊娠すると，早産や死産になったり，胎児に重篤な異常をきたすことがあります。

感染が疑われる症状が見られた場合には，早期に医師の診断，治療を受けましょう。

なお，コンドームの適切な使用によりリスクを減らすことができます。また，一度治っても再び感染することがあるので，パートナーと一緒に検査・治療しましょう。



2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成29年2月分(平成29年2月6日～平成29年3月5日:4週間分)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当たり | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当たり | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|-------|--------|------|----|----------------|-------|-------|--------|------|
| 1 | インフルエンザ | 7,958 | 17.30 | 23.93 | | 11 | ヘルパンギーナ | 12 | 0.04 | 0.02 | |
| 2 | RSウイルス感染症 | 92 | 0.32 | 0.52 | | 12 | 流行性耳下腺炎 | 106 | 0.37 | 0.37 | |
| 3 | 咽頭結膜熱 | 166 | 0.58 | 0.51 | | 13 | 急性出血性結膜炎 | 0 | 0.00 | 0.01 | |
| 4 | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | 602 | 2.09 | 2.15 | | 14 | 流行性角結膜炎 | 44 | 0.58 | 0.52 | |
| 5 | 感染性胃腸炎 | 1,170 | 4.06 | 8.95 | | 15 | 細菌性髄膜炎 | 1 | 0.01 | 0.01 | |
| 6 | 水痘 | 86 | 0.30 | 0.76 | | 16 | 無菌性髄膜炎 | 1 | 0.01 | 0.02 | |
| 7 | 手足口病 | 91 | 0.32 | 0.10 | | 17 | マイコプラズマ肺炎 | 14 | 0.17 | 0.22 | |
| 8 | 伝染性紅斑 | 29 | 0.10 | 0.22 | | 18 | クラミジア肺炎 | 1 | 0.01 | 0.00 | |
| 9 | 突発性発しん | 106 | 0.37 | 0.40 | | 19 | 感染性胃腸炎(ロタウイルス) | 12 | 0.14 | — | |
| 10 | 百日咳 | 2 | 0.01 | 0.02 | | | | | | | |

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成29年2月分(2月1日～2月28日)

| No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当たり | 過去5年平均 | 発生記号 | No | 疾患名 | 月間発生数 | 定点当たり | 過去5年平均 | 発生記号 |
|----|---------------|-------|-------|--------|------|----|-------------------|-------|-------|--------|------|
| 20 | 性器クラミジア感染症 | 54 | 2.35 | 2.17 | | 24 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 86 | 4.10 | 4.39 | |
| 21 | 性器ヘルペスウイルス感染症 | 18 | 0.78 | 0.70 | | 25 | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 6 | 0.29 | 0.55 | |
| 22 | 尖圭コンジローマ | 14 | 0.61 | 0.78 | | 26 | 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 1 | 0.05 | 0.06 | |
| 23 | 淋菌感染症 | 14 | 0.61 | 0.89 | | | | | | | |

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前月比2倍以上増減)

●急増疾患 感染性胃腸炎(ロタウイルス) (0.06 → 0.14)

●急減疾患 マイコプラズマ肺炎 (0.42 → 0.17)

発生記号(前月と比較)

| | | | |
|-----|--|--|--------------|
| 急増減 | | | 1:2以上の増減 |
| 増減 | | | 1:1.5～2の増減 |
| 微増減 | | | 1:1.1～1.5の増減 |
| 横ばい | | | ほとんど増減なし |

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

| | 内科定点 | 小児科定点 | 眼科定点 | STD定点 | 基幹定点 | 合計 |
|---------|------|-------|--------|-------|--------------|-----|
| 対象疾病No. | 1 | 1～12 | 13, 14 | 20～23 | 15～19, 24～26 | |
| 定点数 | 43 | 72 | 19 | 23 | 21 | 178 |

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

【速報値】

| 類別 | 報告数 | 疾患名(管轄保健所) |
|------|-----|---|
| 一類 | 0 | 発生なし |
| 二類 | 29 | 結核(29)〔西部保健所(3), 西部東保健所(4), 東部保健所(5), 北部保健所(2), 広島市保健所(6), 呉市保健所(5), 福山市保健所(4)〕 |
| 三類 | 0 | 発生なし |
| 四類 | 1 | A型肝炎(1)〔福山市保健所(1)〕 |
| 五類全数 | 21 | アメーバ赤痢(2)〔広島市保健所(2)〕, カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(1)〔広島市保健所(1)〕, クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔呉市保健所(1)〕, ウイルス性肝炎(E型, A型除く)(1)〔東部保健所(1)〕, 侵襲性肺炎球菌感染症(2)〔西部保健所(1), 東部保健所(1)〕, 梅毒(7)〔西部保健所(1), 広島市保健所(5), 福山市保健所(1)〕, 麻しん(7)〔西部東保健所(7)〕 |